



ラカム

International School Japanese Section in Riyadh

リヤド日本人学校

学校便り11月号

2016年(平成28年)11月1日

本校在籍児童生徒数(11月1日現在)小学部11名, 中学部1名 12名

11月の生活目標 「 同じ目標に向かって力を合わせよう 」

日本人学校とインター校

校長 鈴木 薫

タイフへの宿泊体験学習を、中止せざるを得なかったことは、本当に残念です。三年前に訪問したアブハは、イエメンに近いので、安全のためタイフに目的地を変更しましたが、そのタイフにミサイル攻撃があり、実施できませんでした。いろいろと準備をし、子どもたちも事前学習を周到にしておりました。

テロに関して、折に触れて身の守り方を指導していますが、「危険なところへは近づかないこと」を第一に指導しており、子どもたちも仕方がないことと理解しています。これからも宿泊体験学習は継続したいと考えております。治安の状況を的確にとらえ、訪問地、実施時期、実施方法を改めて検討する必要があると、考えております。

さて、先月、南西アジア・中東・アフリカ地区の日本人学校の校長が集まる会議が、バーレーンで開催されました。この地区はどこも治安状況が厳しく、どの学校の校長も緊張を強いられています。その中で子供たちの安全をどう確保し、確かな学力、生きる力をつけていくかについて、話し合いがもたれました。

日本企業の海外進出に伴い、世界の各地に日本人学校はあります。生徒数の変遷や地区別の偏りなどは、日本企業の世界での活動を反映します。かつては南米の日本人学校は、生徒数が多かったのですが、現在はほとんどが小規模です。現在は中国、東アジアで生徒数が激増しています。

世界中に日本人学校が開設され、日本から教員が派遣され、国内とほぼ同様の教育が行われていることは、驚くべきことです。日本人学校の役割は大きく、帰国後の日本の学校への転入を考えた場合、日本人学校で学ぶことが最適なことです。

しかし国際化が一層進むにつれて、日本へ帰国しない、一生を海外で生活することもあり得るようになりました。そのような場合は、毎日がやはり英語での生活となりますので、母語を英語にする決意でインター校に行くことも、選択肢だとは思いますが。外国語の習得には最低でも5年間か、6年間は必要でしょう。

せっかく海外に赴任したのだから、インター校に行かせ英語を身につけさせようとする考えも無理からぬことなのかもしれませんが、やはり慎重に長期的な展望にたって判断しないと、子どもにとって難しい状況になることも十分にあり得ます。

小学校での日本語の習得、基礎学力の定着の大切さは、言うまでもありません。その部分が大きく欠落してしまうことは、なんとしても避けなければなりません。

リヤド国立博物館

10月30日にリヤド国立博物館見学に行きました。本年度はサウジの文化について学習を進めており、博物館でさまざまなことを知り、新たな発見をすることができました。

キングサウド大学の日本語学科の学生に、通訳をお願いしました。彼らは事前に博物館に下見に行き、展示物についてもわかりやすく、説明してくれました。子供たちの中には、すでに何度も行ったことのある子供もいました。

皆さんは、国立博物館に行かれたことはありますか。わたしも初めての訪問でした。思っていた以上に内容が充実していて、近代的な博物館でした。

ぜひ一度訪ねてみてください。

11月行事予定

日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	火	全校集会	17	木	安否確認訓練（大使館）
2	水	発育測定	18	金	
3	木		19	土	
4	金		20	日	全校集会
5	土		21	月	
6	日		22	火	
7	月		23	水	
8	火		24	木	
9	水		25	金	
10	木		26	土	
11	金		27	日	
12	土	日本人会運動会	28	月	
13	日	振替休日	29	火	中学部2学期末テスト
14	月		30	水	
15	火				
16	水	現地理解教育講演会			